

## 富山県新記録のエゾミクリについて

長井 真隆  
富山大学

An Additional Record of *Sparganium emerosum* Rehmam from  
Toyama Prefecture  
Sinryu Nagai  
Toyama University

富山県内未記録のエゾミクリを採集したので報告する。併せて同定を頂いた神戸大学理学部角野康郎氏に衷心より感謝申し上げる。

エゾミクリ *Sparganium emerosum* Rehmam  
採集地 富山県中新川郡上市町東種  
海拔296m

採集年月日 1995年9月30日

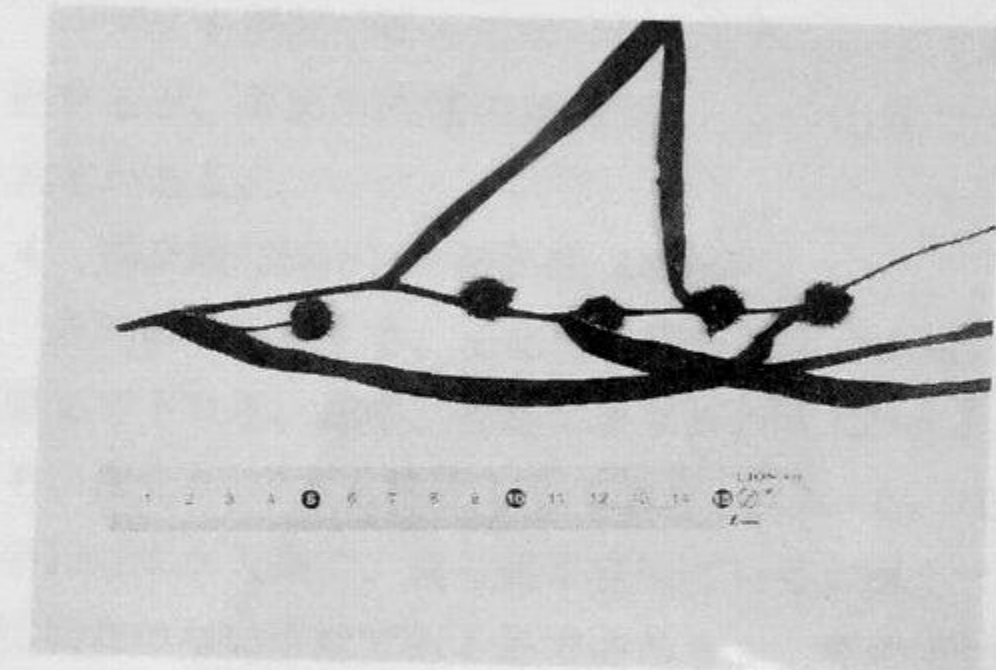
生育環境 幅80cmほどの農業用水路で、流れはほとんどなく水深は約10m

採集品を角野康郎著『日本水草図鑑』で検索したところ、3~4個の雌性花序が、下のものから順に「有柄で腋性→有柄で腋上性→無柄で着性」という典型的なパターンであったのでエゾミクリと判断したが、正確を期すため著者の角野康郎氏に同定を依頼し、併せて隣接県の産地についておたずねした。著者からは次のような要旨を得た。

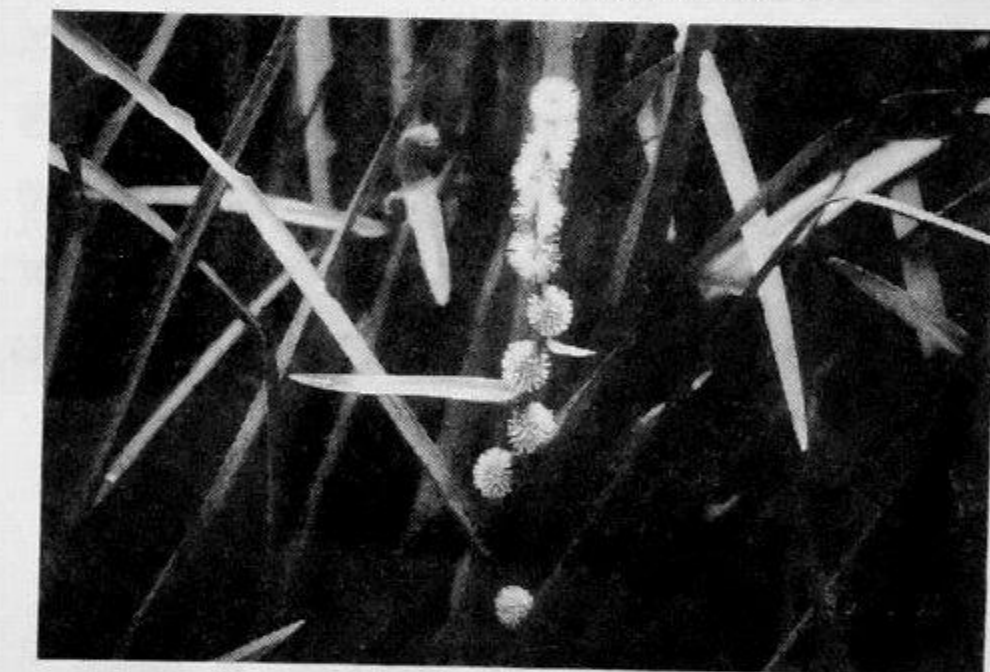
標本はエゾミクリに相違ない。今まで新潟県や長野県の分布を確認していたので、富山県が気になっていた。この標本で富山県の分布が確認できて嬉しく思う。富山県下の河川ではナガエミクリが優占種だろうが、エゾミクリもあるかも知れない。今後の調査に期待したい。隣接県の標本(神戸大学所蔵)のデータは以下のとおりである。

- 1 新潟県北蒲原郡中条町富岡, 水路  
1988.10.4 伊藤 至 29178
- 2 長野県白馬村神城(姫川水系の水路)  
1990.7.28 角野康郎 6791

以上



エゾミクリの雌性花序のつき方



エゾミクリの生育状況(上市町東種)

なお、文献で調べたところ、環境庁『維管束植物種都道府県別分布表』には北海道、青森県、福島県の3道県から生育の確認が報告されており、また角野康郎『日本水草図鑑』の分布図では北海道(11地点)、青森県(2地点)、岩手県(22地点)、福島県(1地点)、秋田県(2地点)、山形県(1地点)、新潟県(1地点)、長野県(2地点)の計8道県に標本の採集地点が示されている。

これに今回の富山県を加えると9道県になる。いずれにしても分布は本州中部以北・北海道に限

カタクリは、小杉町を南北に流れる下条川の堤にそった緩やかな北斜面のスギ植林地の林床に幅約10m長さ30mにわたって生育している。この個体群は、開花個体、未成熟個体、実生から構成されるが、個体群密度は低い。カタクリの同化器官が枯死した5月下旬の生育地の植生を、表1に示した。高木層には樹高18mのスギが優占するが、亜高木層と低木層が発達していないため林床は比較的明るい。さらに、生育地が林縁に位置するため、光が入射しやすい環境にある。

カタクリは夏緑樹林を主な生育環境とする早春植物であり、同化器官を地上に展開する期間は2ヵ月足らずと極めて短く、その光合成特性は陽生植物型である(Kawano et al., 1978)。また、カタクリは完全な他花受精花であり(Kawano and Nagai, 1982)、受粉は昆虫によって行われる(河野, 1978)。このため、カタクリの個体群の存続には早春季の陽光と送粉昆虫が不可欠である。本生育地の個体群は開花個体の密度は低いものの、さまざまな年齢のものが含まれている。1995年5月28日の観察では、果実を形成している個体も確認された。このことから、このカタクリの個体群は人為的な環境の改変や盗掘がなされなければ、個体群が維持されていくものと考えられる。

本生育地はスギ植林地であるが、周辺の丘陵地はコナラ林が広がっているため、スギが植林される以前はコナラ林であったものと推測される。また、本生育地の近くの標高20mの日ノ宮社叢にはウラジログシ林が残存していることから、本生育地一帯の原植生はウラジログシを中心とした照葉樹林であったと考えられる。カタクリはブナ林の

林床植物の構成要素とされる(河野, 1987; 近田, 1991)。原植生がウラジログシ林と考えられる標高20mの地点に、ブナ林を本来の生育環境とするカタクリが生育することは、富山県下でのブナ林とウラジログシ林の変遷過程を考察する上で重要であり、この生育地の保護対策が強く望まれる。

### 引用文献

- 河野昭一, 1978. 花と昆虫—その共存の世界2—。インセクトリウム 15:114-118.
- , 1987. 世界のカタクリ—その分布と多様性—。採集と飼育 49:100-103.
- Kawano, S., Takasu, H. and Nagai, Y., 1978. The productive and reproductive biology of flowering plants. IV. Assimilation behaviour of some temperate woodland herbs. J. Coll. Lib. Arts, Toyama Univ. Japan. 11:33-60.
- and Nagai, Y., 1982. Further observations on the reproductive biology of *Erythronium japonicum* (L.) Decne. (Liliaceae). J. Phytogeogr. & Taxon. 30:90-97.
- , Hiratsuka, A. and Hayashi, K., 1982. The productive and reproductive biology of flowering plants V. Life history characteristics and survivorships of *Erythronium japonicum*. Oikos 38:129-149.
- 近田文弘, 1991. ブナ林の植物相。「ブナ林の自然環境と保全」(村井 宏ほか編), 35-51. ソフトサンエンス社, 東京.

(1995年12月29日受理)

られており、採集地点も極めて少ない。

### 引用文献

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 80~83pp. 文一総合出版. 東京.

環境庁自然保護局, 1992. 緊急に保護を要する動物植物の種の選定調査「維管束植物種都道府県別分布表」. 179pp.

(1995年11月25日受理)

## 黒部峡谷探訪 —沿線の樹木—

若林一成

938 宇奈月町栃屋1813

A Trip along Kurobe Valley, Especially about the Trees

Kazunari Wakabayashi

1813, Tochiya-Unazuki-machi, 938

平成7年11月30日、黒部峡谷鉄道旅客運転最終日、黒部峡谷をたずねる。

### (1) 鉄道沿線の樹木分布の特徴

#### 1 宇名月駅(標高224m)～森石駅(標高309m)

トチノキ、カツラ、ケヤキ、オニグルミ等の巨木や大木がある。それに、ウラジロガシ、イタヤカエデ等もある。

#### 2 森石駅(309m)～笹平駅(327m)

ウラジロガシはなくなり、ミズナラ、コナラ、ブナ等が優位を占め、黒部峡谷の樹木を代表するツガ、クロベがちらほら見えて来る(図1)。

#### 3 笹平駅(327m)～猫又駅(358m)

峡谷鉄道の職員が樹木につけた名札が目に入る。ミズメ、イタヤカエデ、アワブキ、ヤマグワ、スギ、ナナカマド、クサギ、ヒノキ、ケヤキ、オニグルミ。

ミズメを黒部で初めて知った。しかし、よく観察すると、黒部川流域の標高250m位の山腹でも大木がある。

#### 4 猫又駅(358m)～鐘釣駅(443m)

鐘釣駅で下車する。そして、露天風呂のある川原まで下りる。途中、平地にカツラの巨木がある。その根元から7本も株立ちしており、しかも、その1本1本が天高く、真っ直ぐ立っている。久しく雪崩れのない平地である証であろうか。その下に鐘釣の山小屋(鐘釣観光温泉株式会社社長中ハルエ)があった。

名札のついている樹木: ヤマハンノキ、アワブキ、サワグルミ、クマノミズキ、ミズキ、カツラ、ヤマボウシ、フサザクラここへ来ると、オニグルミはなくなり、サワグルミが目立つ(図2)。

H7年11月30日、黒部峡谷(326m)そば後曳橋左岸山腹。岸壁と尾根に常緑樹、沢に落葉樹。トンネル左側にクロヒがあった。



H7年11月30日、鐘釣温泉の鐘釣の山小屋(標高460m)付近の真っ直ぐに株立ちしたカツラの巨木。